

平成 30 年 1 月 30 日 (火)

ないじえる芸術共創ラボ 古典インタプリタ日誌 川上弘美さん WS 伊勢物語はなぜ人気があるのか？

1、川上弘美さんの新連載「三度目の恋」

1 月 30 日、川上弘美さんが来館されました。以前からこのプロジェクトに参加してくださっている川上氏ですが、私は初対面。これまでご著書を拝読していたので、作品にまつわるお話もうかがえるかと、わくわくしながら当日を迎えました。

川上さんは昔から伊勢物語が大好きだったそうで、すでに『伊勢物語』を題材とした「ignis」¹という短編小説と、『日本文学全集 03』²で『伊勢物語』の新訳を発表しておられます。この「ないじえる芸術共創ラボ」では、伊勢物語をモチーフにした恋愛小説「三度目の恋」を執筆しておられ、既に『婦人公論』で第 2 話まで公開されています。

本日は、3 月に予定している『伊勢物語』



¹ 『なめらかで熱くて甘苦しくて』（新潮社、2013）

についての対談（川上さん×マクミランさん×山本登朗先生）の顔合わせを兼ね、当館所蔵の伊勢物語関連資料を閲覧しつつ、専門家である山本登朗先生（当館客員教授）、小山順子先生（当館准教授）、藤島綾先生（都留文科大学非常勤講師）を交えて作品の魅力について語り合いました。

2、伊勢物語はなぜ人気があるのか？—想像の余地—

川上さんは、なぜ『伊勢物語』がこれほど人気なのかということに関心を抱いておられます。特に江戸時代には多くの写本、刊本が作られると共に、注釈書やパロディ作品なども幅広く存在し、読み方の多様さがうかがえます。『伊勢物語』を専門とする山本登朗客員教授は、江戸時代の識字率が高く、いわゆる庶民であっても『伊勢物語』を読むことはできただろうということに触れつつ、パロディ作品である



【図 1】

² （池澤夏樹編、河出書房新社、2016 年）

平成 30 年 1 月 30 日 (火)

『仁勢物語』³ (図 1) は『伊勢物語』をよく理解していなければ書けない高度な作品で、読み手と書き手にも様々なレベルがあったと話されました。

しかし文字で書かれた作品だけが、『伊勢物語』を現代まで生き残らせてきたわけではありません。日本各地には、『伊勢物語』にまつわる多くの伝承が残っています。

たとえば、23 段「筒井筒」には大和に住む男が河内の国高安の郡まで通うという話がありますが、実際奈良から大阪までのルートに、業平が通った痕跡と伝わる場所がいくつもあるそうです。『伊勢物語』



³ 仮名草子。2 巻 2 冊。作者未詳。寛永 16～17 年 (1639～40) 頃成立。流布本「伊勢物語」の 125 段を逐語的にもじった作品。掲載箇所は、『伊勢物語』で「男」が春日の里で美しい姉妹と出会う場

には、京都だけでなく、奈良や大阪など近隣の土地、さらに東北や関東が舞台になっている話が収められており、「ご当地のエピソード」として各地で親しまれやすいのではないかという話になりました。

また、『伊勢物語』は一話一話が短く、あまり細かな心理描写などがないため、読み手が登場人物の心情や、物語の背景についてあれこれ思いを巡らせる余地があります。川上さんはそれを「人の恋バナを聞いて色々言っているような楽しさ」と表現されていましたが、確かに様々なパターンの恋愛物語が収められているので、それらについてわいわい話すと面白いものです。

このように、読者が想像を膨らませて楽しむ素地ということが、ロングセラーの秘密のひとつかもしれないという意見が出ました。

3、川上さんの創作と『伊勢物語』

川上さんは『伊勢物語』をモチーフにした小説を執筆しておられますが、その苦労や気をつけておられることについて、いくつかお話をいただきました。

たとえば「色好み」が美德とされた時代の業平を現代版にすると、倫理観が違うため悪い男になってしまう、であるとか、平安時代の

面をもじった場面。姉妹 (女はらから) の代わりに「はらか」という魚が描かれ、舞台が春日であることを示す鹿も描き添えられる。(国文学研究資料館 鉄心斎文庫 請求記号 98-956-1～2)

平成 30 年 1 月 30 日（火）

会話はどのような言葉を使っていたのかわからないので、安易に平安時代の描写ができない、であるとか。古典をモチーフにした作品だからこそ、考えておられるところだろうと思います。

一方で、『伊勢物語』との共通点も教えてくださいました。

それは、恋人同士になってからの物語を描いているということ。川上さんの作品は、恋の駆け引きよりはむしろ、関係ができあがってしまっからの出来事や心の動きを描くものが多く、だから『伊勢物語』が好きなのかもしれないと語ってくださいました。

『伊勢物語』の作品自体だけでなく、現在の研究の状況や、川上さんの創作まで、話題の尽きない時間でした。『伊勢物語』について様々な角度からの意見をうかがい、どうしても気になってしまったため、早速読み返しているところです。

また、始終『伊勢物語』や業平について楽しそうに語り、時折熱心にメモをとっておられる川上さんの様子が印象的でした。「三度目の恋」の構想も少しかがったので、次の展開が大変楽しみです。

